岐阜県表彰優秀賞

『小さな事を世界のために』

多治見西高等学校附属中学校　二年　竹原　実優

「安全な水とトイレを世界中に」

これはＳＤＧｓで定められた十七の目標の中の一つだ。ＳＤＧｓとは「Ｓｕｓｔａｉｎａｂｌｅ　Ｄｅｖｅｌｏｐｍｅｎｔ　Ｇｏａｌｓ」の略称であり、持続可能な開発目標という意味を持つ。二〇一五年の国連サミットで決定されたもので、国連加盟国が二〇一六年から二〇三〇年の十五年間で達成するために掲げた目標だ。

私は学校でＳＤＧｓについて講話があったときに、よりよい世界を目指すための目標が定められていることを初めて知った。そしてその目標を説明されたときに、一番気になったものが「安全な水とトイレを世界中に」という目標だ。なぜなら、私たちが朝起きて顔を洗うときも、料理を作るときも、お風呂に入るときも、蛇口をひねればきれいな水が出てくるのが当たり前だからだ。でも世界に目を向けると、それは当たり前のことではないと分かった。講話では私よりも年下の子供たちが水をくむために大きなタンクを背負って歩く写真を見せられ、水をくみに行くために学校にも行けないことを知った。さらにその水は透明ではなく、茶色く汚れた水だと分かって驚いたし、もし自分がそれを使うことになったら嫌だなと思ってしまった。でもその子供たちや、その国に住んでいる人たちにとってはその水は大切な資源で、生活するためには使うしかないのだと思うと、嫌だなと思ってしまうことは失礼なのではないかとも感じて複雑な気持ちになった。

二〇一七年の時点で、二十二億人もの人々が安全な水を利用できず、そのうち一億四千四百万人は池や河川、用水路などの水をそのまま使っている。また、衛生的に処理できるトイレが家にない人は四十二億人もいる。このような状況の国がある中で、私たちのようにきれいな水を飲んだり使ったりできる国もあることに世界の不平等さを感じた。これらのことを知って、きれいな水が簡単に手に入れられる日本は当たり前ではなく、特別なのだと分かった。

今回ＳＤＧｓのことや水のことについて調べていた中で、私が住んでいる可児市にもＳＤＧｓの取り組みに参加している会社があった。その会社のスローガンは「可児から世界へ」ホームページには世界で使えるシャワー便座の取り付け工事をフィリピンで行ったということが掲載されていた。自分にはなかなかできることではないのでかっこいいなと思ったし、自分が住む地域に世界で活やくする会社があることが誇らしかった。

では、私たちにできることは何だろう。それはきれいで安全な水を使えることが、当たり前ではないということを忘れずに大切に使うこと。そのために、歯みがきをするときはコップに水をためて使う。シャワーの水は出したままにしない。お風呂の残りを洗濯に使う。私たちが水を節約しても、その分の水が世界の人に届くわけではない。ただ、小さなことから始められたらいいのではないかと思う。

安全な水を使えるということが世界中の誰にとっても当たり前になることを願い、自分ができることをもっと考えていきたい。